

第十三回川尻・安浦地域包括ケアシステムを樹立する会

令和元年5月15日（水）18：30～19：30

テーマ「住み慣れた地域で暮らしていくために ～地域ネットくれんどの事業とまるごとネット安芸灘～」

令和最初に行われた、「川尻・安浦地域包括ケアを樹立する会」（以下、樹立の会）のご報告をさせていただきます。

この度の樹立の会は、「住み慣れた地域で暮らしていくために ～地域ネットくれんどの事業とまるごとネット安芸灘～」と題しまして、特定非営利活動法人 地域ネットくれんど 松藤 拓史氏をお迎えし、ご講義頂きました。

当初、昨年7月の開催予定でしたが、西日本豪雨災害の影響もあって延期となっていました。再度の講義依頼にも快く引き受けて頂きました。改めて感謝申し上げます。

くれんどさんの事業として、①地域協働センター（支えられる側ではなく、地域の担い手となって、地域の活性化に貢献する就労活動を行う）、②子ども・家庭支援センター（あなたはあなた、ありのままの自分で良いことを再認識させてくれる場所）、③地域生活支援センター（施設で生活するのではなく、自宅で実現したい暮らしをサポートする制度を実施）という、3つの特色のある事業を展開されていることが分かりました。

また「まるごとネット安芸灘」は、障害児者の重度化・高齢化、「親亡き後」を見据えて、早い段階で安定した居住支援が行える体制を目的に設立され、さらに一時的に緊急避難的な居場所を確保し、元の生活に戻るための支援も行っています。また個々の課題は、地域の課題でもあるため、行政・医療・福祉を巻き込んで解決に向けた会議も行っていることが分かりました。

最後に5つの事例を提供してくれましたが、どのケースも大変な事例でした。100%満足いく支援は出来ないし、自宅での生活が限界となり、本人の意に反するが施設で過ごすとしても、良質な生活は確保されると思います。

松藤氏の温かな口調で、何人もの障害児者が救われてきたことは言うまでもないなと思いながら、拝聴しました。貴重なご講演をありがとうございました。

